

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・日本英語検定協会英語能力テスト2級、準2級の合格者の割合 ・日本漢字能力検定協会漢字能力テスト2級、準2級の合格者の割合 ・実務技能検定協会秘書検定2級、3級の合格者、及びその他検定合格者の割合
計画名	検定試験合格と学校力の飛躍計画

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>大阪成蹊女子高等学校の教育計画より「中期的目標」（抜粋）</p> <p>③ 本校の学びの目標である成蹊スタンダードを明確にし、その3カ年の教育目標の達成に向けた各教科の取組みを計画的に進める。また、生徒の学習意欲を高めるために、生徒の学習意欲の向上と達成感の醸成のために、各種検定試験の活用を勧める。また、日々の教科指導を点検し充実させるなど、「わかる授業」の実践と学力の向上を図る。（各種検定を活用した学習の促進）</p> <p>④ 本年度から全コースで実施するキャリア教育を更に充実させ、それをベースとして、各コースの特色ある取組みの更なる充実をめざして他校との差別化を図る。（キャリア教育の推進と特色あるコースの鮮明化）</p>
事業目標	<p>本校は中堅層の生徒が学ぶ私立女子校であり、幅広い学力と多様な学習目標の生徒が集まっている。とりわけ、特進・幼児教育・スポーツ・美術・キュリア進学等特色ある5コース制のもとで、自立した女性として社会で活躍する人材育成をねらいに教育活動を展開してきたが、生徒・保護者の要望に応えるために、更なる教育力の向上が必要となってきた。今回、「女子に特化したキャリア教育」を教育目標の中心に位置づけ、将来の夢と目標の実現に向けて基本的な知識としての学力の向上と自立心の育成、自己肯定感の醸成をねらいとする経営計画を策定した。その目標達成に向けた方法として、各種検定の資格取得を全校的に推奨し、コース毎の多様な生徒ニーズに対応して英検・漢検・秘書検定・料理検定・歴史検定など各種検定の中から生徒に複数の検定受験を義務付け、校内的には対策補習の他に、関連科目の内容に資格取得のための取組みを体制的に加え、卒業までに自己達成目標として一定レベルの級の合格を必須とする指導計画を作成した。この計画では全生徒を対象に、関連する科目の授業や放課後補習でICTを活用した検定対策も十分に行うほか、平成27年度から検定対策を主目的とする学校設定科目をカリキュラムに組み込むなど全校的な体制に整備する。併せて、生徒の資格取得の達成と学力向上をめざしており、検定受験の取組みによる学習意欲と達成感の向上を起爆剤にして、日常的な一般的な学力向上の契機になることも期待したい。また、その実現に向けた学習ツールとして本校のICT活用環境を整え、ICT教育の向上も図る。また教員管理の面でも、検定受験で合否が客観的に出るため、個々の教員の指導力評価指標としても活用できるので教員の指導力改善にも繋がる。本計画では、検定取得に向けた校内の取組みの強化を通して、生徒の基礎学力と達成感から派生する学習意欲の向上、学校のICT環境の整備、評価を通じた教員の授業指導力の向上が期待できるなど、学校全体の教育力の向上を目標として本計画を推進したい。</p>
整備した 設備・物品	<p>① タブレット型パソコン（i-Pad）1クラス生徒数分として40台、及び関連する充電機器と管理庫</p> <p>② 授業説明用の電子黒板1台とプリンター等の接続する周辺機器</p> <p>③ 全教室の黒板の上に設置する固定式のプロジェクター用ロールスクリーン</p> <p>④ 図書館に整備する各種検定（英検、漢検、秘書検定、料理検定、歴史検定等）受験対策図書を各複数</p>
取組みの 主担・実施者	<p>担当組織として学力・検定対策プロジェクトチーム（教頭、主幹教諭、副主幹教諭、教務部長、教務部1名ほか）を設置し、主担に本校の主幹教諭または副主幹教諭を配置する。</p>
本年度の 取組内容	<p>① 教室での視覚教材の利用環境を整備し、教科指導力の向上に努めた。全教室に設置したロールスクリーンを活用した授業が少しずつ広がり、英語・数学・国語等の教科で使用場が拡大した。特に、英語の授業では視覚機器の活用は進んできた。</p> <p>② ネット端末を活用した授業を開始した。図書室に設けた無線LANにより、i-Padを使用した情報検索学習を実施した。まだまだ、一般教科で使用できていないが、こちらも次年度拡大の方向である。</p> <p>③ 検定対策本、対策ソフトを使った個別学習機会の拡大を図った。図書室に設置した検定対策本の使用頻度はかなり高まった。また、第三PCに導入した漢検英検の対策ソフトの使用も生徒の自主学習の機会として役割を担った。</p> <p>④ 多目的ホールに設置したプロジェクターを活用した講演会の充実を図り、様々な研修会を実施した。ホールでのプロジェクターとスクリーンを活用した、各種講演会は数を増やし、学習意識の定着と各生徒の検定チャレンジ目標の設定の場となるキャリア教育とも連携できた。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>① 秘書検定の達成目標 … 1年生 3級合格者を80%</p> <p>② 英語検定の達成目標 … 1年生 2級合格者を3%、準2級合格者を5%、3級合格者を50%</p> <p>③ 漢字検定の達成目標 … 1年生 2級合格者を5%、準2級合格者を8%、3級合格者を60%</p>
自己評価	<p>① 秘書検定は本年度2回実施した。3級のべ受験者611名で合格者235名（合格率39%）、2級受験者33名で合格者10名（合格率30%）、3級以上の合格者は1年在籍者の47%で、評価指数の80%にとどいていないが、特進クラスでの合格者は82%である。（△）</p> <p>② 英語検定は本年度2回実施した。1年生の3級が435名受験で合格者197名（合格率45%）、準2級は63名が受験して合格者25名（合格率40%）。2年生以上では2級受験が55名で合格者7名（合格率13%）である。3級以上に合格者した1年は、在籍比で45%で、ほぼ評価指数を達成した。（○）</p> <p>③ 漢字検定は本年度4回実施した。3級のべ853名受験で合格者199名（合格率23%）、準2級365名受験で合格者77名（合格率21%）、2級126名受験で合格者9名（合格率7%）である。合格者の達成目標では、3級合格者が1年生で155名（30%）、準2級合格者が24名（5%）、2級合格者が3名（0.6%）で評価指数に達していない。（△）</p>
次年度に向けて	<p>・担当プロジェクトの見直し。今年設置した学力・検定対策プロジェクトチームは、中間管理職を多用したが、十分な活動と成果を上げることができなかった。次年度は、各教科から2名ずつの担当者を選ばせるなど実行型のメンバー体制に改編し、プロジェクトチームの機能拡大を図り、全体的な検定合格の向上を図ることとする。</p> <p>・電子黒板、i-padなどICT機器の活用を促進する。本年度のICT、電子機器の配備は夏休み明けであった。そのため、年度はじめの教科の指導計画や授業案の中でスムーズな活用は困難であった。本年度は、年度はじめの授業計画、シラバスの中で有効活用を図るよう、全教員に指示を出して、活用に向けて取り組むこととする。</p> <p>・年度初めのホームルームで、全生徒に本年度の合格目標を設定させ、1年間の学びと目標達成に向けた計画を立案させ、実行させる。生徒の合格に向けた動機付けを行い、生徒の自発的、自主的な検定対策の促進を図る。</p>